

第119回役員会・第50回経営審議会 議事要録

日 時：2020年3月19日(木)14:00～15:40

会 場：大学本館 E-701 会議室

出席者：津田理事長、松尾副理事長、清田理事、片山理事、柳井理事、龍理事、田上理事

井上委員、今川委員、岩松委員、柏原委員、小林委員、松永委員

(オブザーバー) 中野監事、福田監事、二宮副学長、中尾副学長

議 案

- 1 「令和2年度計画案」について
- 2 2020年度予算案について
- 3 公立大学法人北九州市立大学授業料等に関する規則改正について
- 4 公立大学法人北九州市立大学授業料等減免及び徴収猶予規程改正について
- 5 経営系専門職大学院の認証評価について

報 告

- 1 2020年度入学者選抜試験の結果について
- 2 2019年度卒業予定者の就職内定状況について
- 3 世界に羽ばたけ！北九州サイエンスガールプロジェクトについて

議案1 「令和2年度計画案」について

<質疑応答>

[委員]留学について表記があったが、コロナの影響はどれくらいあるのか。

[副学長]2019年度の送り出しは141名の予定で、昨年度実績の119名を上回る予定であったが、ご承知おきの通り中国、韓国、アメリカ等が中止になっており、2019年度は115名に留まった。昨年度比で4名減である。受け入れは、この春から30名、総数で50名の予定だったが、日本にいる20名の学生のうち、アメリカの学生が帰国要請を受けて帰国したので現在18名いて、今から来る学生は、アメリカは中止だが、中国15名や韓国2名の17名の学生が来る予定。今は3月31日までビザの発給等が止まっている状況であるので、最終的に受け入れ予定の学生がきちんと来れても最大で35名に留まる。先ほどの計画にあった46の国際交流ハウスシェアリング等は難しい。

[委員]2点あるが、1点目はSD研修、職員力は今大学改革で必要だといわれているし、良いと思った。ただ、FD研修は参加率の目標があるのに対して、SD研修は参加率が明記されていないので、これからだとは思いますが、ベンチマークみたいなものを定めたほうが良いと思う。

2点目は、「管理運営」の3であるが、自己点検・評価を来年受けるということで、評価には学習成果の可視化がポイントになっているから、3の自己点検・評価と1の教育の充実、(1)学部・学群教育の充実と連動させて取り組む必要があると思う。

[理事]先ほどSD研修の参加率について話があったが、原則全員参加になっている。また、SD研修の中で時に力を入れているのが、プロパー研修で、階層別研修にはなるがビジネススクールの先生方に講師になっていただいて経営についても学んでいる。

[副学長]AP補助事業の最終年度になるので、3つのポリシーの整備を進め、IRデータとして整理し、成績等把握しながら学習成果が上がっていくかどうかを1と3を連動させて取り組んでいきたい。

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】異議なし

議案2 2020年度予算案について

<質疑応答>

[委員] 社会人教育だが、i-Design に関しては支出と収入のバランスがとれているが、en-Pit Pro はどのような状況なのか。補助金はあると思うが、授業料は徴収しているはずなので授業料とのバランスはどれくらいなのか

[理事] 授業料が総額7百万、事業費も7百万で収支見合いである。

[委員] 将来的には、せつかく事業を立ち上げるのだから、社会人教育で儲けるような仕組みにしないといけないと思う。そういうことを意識して、この事業を継続していただきたいというのが要望である。

[理事] できるだけ、この大学の中でうまくまわしていけるように、現在、経費の中にはオンデマンドの作成もあり、できるだけ非常勤講師が必要ないような形で授業の資料などを作成しつつあるので、そういったものを使用していけば、今後経費は少なくて済むと思う。

[理事] 国の補助金制度ができると思うが、学生を募集する際に北九大独自の奨学金制度があると言ったら、その後、国の補助金が減らされる懸念はないのか、その辺りはどうなのか。

[理事] 新入生については、学部生はすべて国の基準に則って取り組むようにしている。大学独自制度は、国の制度の対象にならない大学院生、留学生に設けているので、一般の学部生については国の制度のみということにさせていただいている。

[副理事長] 次の議題で詳しく補足的な説明もさせていただく。

【議長】 提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

議案3 公立大学法人北九州市立大学授業料等に関する規則改正について

議案4 公立大学法人北九州市立大学授業料等減免及び徴収猶予規程改正について

<質疑応答>

[委員] 文科省のリーフレットに成績や出席要件があり、ある一定のラインを下回る場合は、警告の上、支援を打ち切るとあるが、そうなった場合、どのように対処するか規程などあるのか。一般的には休退学者が増加するのではないかとされているが、どのような対応を考えているのか。

[理事] 成績はGPAや単位などが判断基準になるが、制度の欠格にならないよう学生の勉学を支援していきたい。

[副理事長] 条件であるGPAや取得単位だが、本学でGPAの算出の仕方等も認証評価にも関わるところなので検討しているところである。警告が出たような学生には、理由書での対応や指導を含めた具体的な学生フォローを考えていく必要があると思っている。

[理事長] 現制度の評価と成績要件などは変わってしまうのか。

[理事] 現制度より新制度の方が厳しい。

[事務局] 補足説明になるが、成績要件については、新規で申し込む時と継続の時と2つある。

新規の申し込みの場合は、今の制度で申し込むより厳しくなる。ただし、継続する学生が申し込む場合は、今より少し楽になる。今回、標準取得単位数という概念が全国共通で出ている。簡単に言うと、卒業要件単位の124単位を4で割って1年分の31単位、2年で62単位取っていることになり、本学でいうとその部分は厳しくなる。継続要件については、その5割以下という条件になっているので、実際は15単位程度取れば打ち切りにならない。やはり制度が変わるときは、なかでは有利不利があるが、学生部委員会で細かい規程を定めて対応予定である。

【議長】 提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

議案5 経営系専門職大学院の認証評価について

<質疑応答>

[委員] ビジネススクールの認証評価を受審する際に、入学者の資料があるが、充足率についてクレームがつくことはないのか。

[教員] 専門職大学院で、定員充足率とAPのバランスは課題であるが、他大学の状況からしても、1学年30名定員で、若干割り込む程度なので、本学の定員充足率は評価に足ると思う。

【議長】 提案のとおり承認してよろしいか。

【委員】 異議なし

報告1 2020年度入学者選抜試験の結果について

<意見>

[委員] 報告の通り、超安全志向であったので一般選抜はこういう状況でよいと思う。ただ、AO入試、推薦入試といった年内入試が36%を占めているが、今後もしばらくは早期に意思決定する学生が増加するとみられているので、どのように優秀な人材を確保するのかを年内入試の戦略を練ると良いと思う。

報告2 2019年度卒業予定者の就職内定状況について

<質疑応答> なし

報告3 世界に羽ばたけ！北九州サイエンスガールプロジェクトについて

<質疑応答>

[理事] 理工系の学生を増やしたいと思うが、高校で数学を捨てたというような女子学生も多いので、数学や物理を学ぶ学生が増えるような取組にしてほしい

[理事] 数学や物理が苦手な高校生に参加を促していて、更に高校生ではもう遅いという声を受け、中学生（男子学生も含む）も参加していただけるよう広報している。垣根を低くして支援していきたいと活動している。

[理事] 分数でつまずいて・・・という話も聞くので、中学生でも遅いかもしれない。小学生等にも響くような理系のプロジェクトも要望する。

[委員] 「世界に羽ばたけ！北九州サイエンスガールプロジェクト」はキャッチーなネーミングで良いと思う。他大学の事例として、東北大学の「サイエンスエンジェルス」、東京医科大学の「科学のマドンナプロジェクト」といったリケジョを育てるプロジェクト、また工学大学院では26年間「わくわくサイエンス教室」を開催しており、未来の理系を増やす取組等がある。ただ、九州ではまだあまり聞かない取組なので、工業都市北九州市でもあるし、どんどんマスコミなどに売り込んだらよいのではないかと思う。